

【1】次の文章は「土佐日記」の一節で、一月七日の記述である。これを読んで後の問いに答えよ。

(東京女子大学・現代文化部、一九九八)

七日になりぬ。同じみなどにあり。今日は白馬あおむまを思へどかひなし。ただ波の **a** きのみぞ見ゆる。かかるあひだに、人の家の池と名のあるところより、鯉はなくて、鮒よりはじめて、川のも海のも、ことものども、長櫃ながびつにないつづけておこせたり、若菜cぞ今日をば知らせたる。歌あり。その歌

**d** あさぢふの野辺にしあれば水もなき池につみつる若菜なりけり

**e** **f** いとをかしかし。この池をいふは、ところの名なり。よき人の男につきて下りて住みにけるなり。この長櫃のものは、みな人、わらはまでにくれたれば、あきみちて、船子どもはらつづみをうちて、海をさへおどろかして波たてつべし、

問一 文脈に注意して、空欄 **a** に入れるべき漢字一字を記せ。

問二 傍線部 **c** 「若菜ぞ今日をば知らせたる」とは、今日が何の日であることを知らせているのか答えよ。

問三 傍線部 **b**・**e**・**f** の文中における意味として、もつとも適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

**b** 「になひつづけて」

- ア 列を連ねてかついで  
イ いくつも連ねてかついで  
ウ 長時間かつぎ続けて  
エ 長い道のりをかついで  
オ 縄でしばってかついで

**e** 「をかし」

- ア 滑稽な感じがする  
イ しんみりとした風情がある  
ウ 気の利いた表現である  
エ 技巧的に走りすぎている  
オ 季節感がよく出ている

**f** 「あきみちて」

- ア あきれるほど食べて  
イ 満腹して  
ウ 食べあきて  
エ ふざけ騒いで  
オ 皆がよろこんで

問四 傍線部 **d** 「あさぢふの…」の歌の作者は男か、女か答えよ。また、それはなぜわかるのか、その理由を十五字以内で記せ。